

[生活環境経済学科]のゼミナール



Department of Economics for Life and Social Environment SEMINAR

※1: 出典 / 厚生労働省「地域別最低賃金の全国一覧」(各年) ※2: 出典 / 厚生労働省(2015)「最低賃金近傍の実態について」 ※3-4: 出典 / OECD. Stat "Minimum relative to average wages of full-time workers" ※5: 出典 / 橋本俊昭・浦川邦夫(2012)「日本の地域間格差」日本評論社 ※6-7: 出典 / 総務庁統計局https://www.stat.go.jp/data/index.html

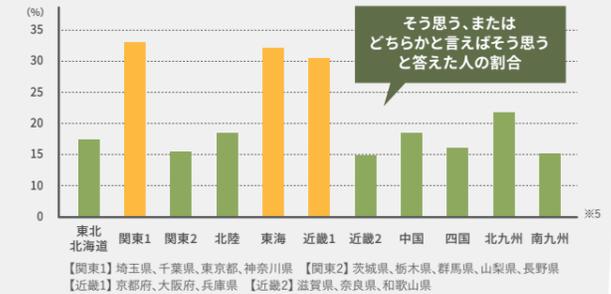
01 地域別最低賃金と最低賃金上昇率

最低賃金とは使用者が労働者に支払わなければならない賃金の最低額を決めた制度です。この金額は各都道府県ごとに定められています。学生のアルバイトにもこの制度が適用されています。右のグラフを見ると最低賃金の上昇率と地域別最低賃金額が増加傾向にあることが分かります。



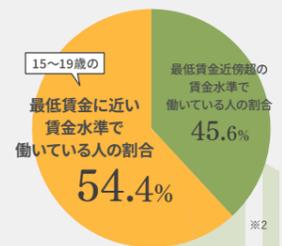
02 地域別住民のアンケート調査「さまざまな仕事がある」

右のグラフはその地域に住んでいる住民の方に、「住んでいる地域に仕事があるか」を聞いたアンケート調査の結果です。日本の三大都市圏である東京・大阪・名古屋周辺に仕事が集まっていることが分かります。仕事の種類が少なくと都市に人が流れてしまい、地方の人口減少や高齢化を引き起こすと考えられます。

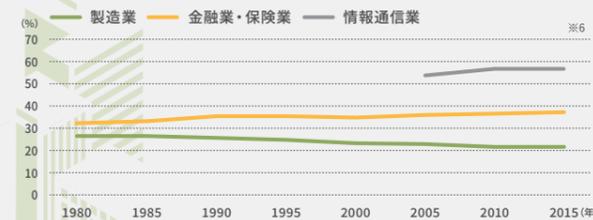


都道府県別最低賃金

右の円グラフは15歳から19歳の若い世代の中で、最低賃金に近い賃金水準(最低賃金×1.15未満)で働いている人がどれくらいいるのかを表したグラフです。このグラフを見ると約半数の人が最低賃金近くの給料で働いていることが分かります。若者の2人に1人が最低賃金の変動による影響を大きく受ける予想できます。

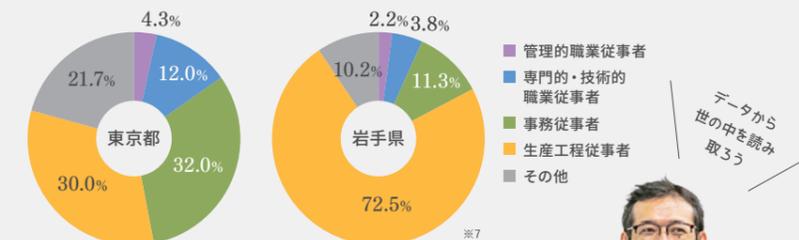


産業別就業者数における東京大都市圏の占める比率



東京大都市圏への集中

東京大都市圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)に仕事への集中度を見ても、日本経済を牽引してきた製造業の比率が低下している一方で、情報通信業は東京近辺に著しく集中しています。「情報化は大都市の優位性を揺るがす」とは言い難いようです。

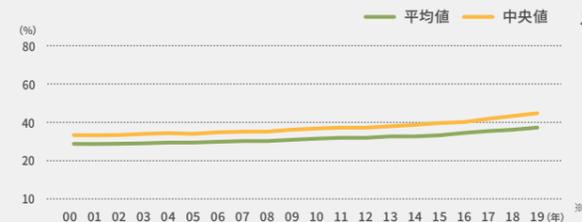


製造業における職業別就業者の比率

上の円グラフを見てみると、都市に比べ地方は管理職等の割合が少なく生産工程従事者の割合が7割を占めています。都市と地方で担う仕事が違うことで所得にも差が生まれるのではないのでしょうか。場所に焦点を当てて経済を考えると、社会問題の輪郭が見えてきます。



「働き方」の分析は将来の役に立つでしょう



世界と比べた日本の最低賃金の水準

日本の最低賃金上昇率が上がっているとはいえ、世界と比較してみるとまだまだ安いと言えるでしょう。ヨーロッパ諸国や同じアジアである韓国よりも、日本は最低賃金が低いのが現実です。実生活と直接関わりが深い「所得」について、様々なデータを活用しながら分析することは、将来自分の役に立つかもしれません。

学生の興味を優先してくれるゼミです

意見が言いやすいアットホームな環境です

データから世の中を読み取ろう

山縣 宏寿ゼミナール

Hirohisa Yamagata SEMINAR

長尾 謙吉ゼミナール

Kenkichi Nagao SEMINAR

山縣 宏寿 准教授

教授の視点

学生の視点

4年 渡辺 直登 さん

「働き方」・「働かせ方」の検討を通じて、社会を知る

近年の「働き方」・「働かせ方」について、個人レベル、組織レベル、そして社会レベルの3つのレベルから検討しています。論文、資料を調べ、それらを読み込み、ゼミ生同士で議論を行います。「働く」ことに関する理論を学びつつ、現実の「働く」はどうなっているのか、理論と現実の往復運動も重視しています。企業の方とコロナ禍において「働き方」がどのように変化してきたのか、大学新卒者の採用活動はどのように変化しているのかについてもゼミで取り上げました。

現実の労働問題について、その実態を調査する

「働く」ことに関する論文や資料を取り上げ、実在する労働問題について各種のデータを交えながら学生同士でディスカッションをしています。ゼミでの活動を通して論理的思考力や課題解決能力を身につけることができました。さらにPCスキルについての勉強会、SDGsの学習機会など学生の興味があることをゼミの活動に積極的に取り入れてくださいます。卒業生や企業の人事の方と交流する機会もあり、コミュニケーションを何よりも大切にする魅力的なゼミです。

4年 山田 美憂 さん

学生の視点

教授の視点

長尾 謙吉 教授

立地と経済の関連性を学び、交流で視野が広がる

「産業立地と都市・地域経済」について様々な視点から研究しています。関連書籍の輪読を通して、立地と経済の関連性の基礎知識を身につけ、個人でまとめた書籍の情報をゼミ内で発表します。さらに少人数グループに分かれて、他大学との合同研究発表会に向けて活動します。ゼミ内は意見が言いやすいアットホームな環境です。また長尾先生は学業以外のことも親身に聞いてくださいます。自分の視野を広げ、興味のある事柄に意欲的に活動できることが魅力のゼミです。

「どこで」に着目して都市・地域経済と生活環境を考える

「産業立地と都市・地域経済」をテーマにしています。「働く場所となるオフィス、研究所、工場、営業所、店舗はどこに立地するのか?」「生活するために必要な住宅、商業施設、学校、ごみ処理施設などどこに立地するのか?」を学びます。立地の理論と現実を学んだうえで、経済データを地図に表現して都市・地域経済の変化を分析します。学生の出身地が北は北海道から南は沖縄県まで広がり、留学生も加わって多様な生活経験を踏まえた活発な議論をしています。